

高齢化と家族の少人数化が生みだす問題に、住民パワーで取り組む！

地域が抱える問題に、「放っておけない」「何かしたい」という住民が集まり、各自のマイカーを使った生活支援を行っています。コロナ禍だからこそ、マイカーによる個別支援が効力を発揮しています。

社会的孤立を防ぎ、車が無い人もお互いの支え合いで安心して住み続けられる地域、住民同士のあたたかいつながりのある地域を築きたい。

しものごう

下ノ江ささえあい隊（石川県能美市）



町内に4軒ある「ごみ屋敷」の片付けに着手しています。そのうち最初に手掛けた1軒のお宅は1人暮らしの女性宅ですが、本人の健康状態が悪化し犯罪の被害にも逢うようになり、周辺のお宅にも様々な影響を及ぼして、地域から孤立して暮らしていました。

昨年11月、孤立した住人が住む「ごみ屋敷」の支援は地域全体の問題であると捉えた住民が集まり「下ノ江ささえあい隊」を結成しました。

町内で次々に「ごみ屋敷」が発生する背景には高齢化と家族の少人数化に伴う日常生活や移動の不便さがあると感じます。それを含め、現在14名のメンバーで“3本柱の活動”を続けています。

活動の柱① 「ごみ屋敷」の解決



本人との信頼関係を慎重に築いたうえで片付け作業と不用品の搬出・運搬を行っています。

活動の柱② 車が無い高齢者等への移送・外出支援



個別ニーズに対応した外出支援を行っています。

行先は、各種買い物、各地の病院、銀行、郵便局、理髪店、弁護士事務所、友人や親戚宅など、様々です。新型コロナウイルスワクチン接種会場への移送もあります。

活動の柱③ 健康維持と交流促進



健康維持と交流促進のため、町内の広場を利用し簡易的なグラウンドゴルフ場を設けました。オープニングイベントには2名ずつ移送しました。

昨年11月活動開始後の半年で、①19回、②25回、③13往復となり、3本の柱に関するメンバーの活動回数は延べ100回超です。

コロナ感染症対策として、事前の抗菌抗ウイルス処理やゾーニングを工夫しました。

